

日本原子力学会 核燃料部会
平成 29 年度第四回運営小委員会議事録

日時 : 平成 30 年 2 月 26 日 (月) 13:30~17:00

場所 : 日本原子力学会 事務局 会議室

出席者 : 寺井部会長、伊藤副部会長、宇埜副部会長、天谷委員、池田委員、吉田 (佐藤 (隆) 委員代理)、逢坂委員、大矢委員、尾形委員、草ヶ谷委員、黒崎委員、谷口委員、渡部委員、原田委員、平井委員、山内委員、柳沢委員、島田 (記)

議事

1. はじめに

寺井部会長から、春の大会を控えており、様々な件についてしっかり議論して結論を出していきたいとの挨拶があった。

2. 前回運営小委員会議事録等の確認

島田庶務幹事から、資料 1 により、前回 (平成 29 年度第三回) 運営小委員会議事録が提示された。内容確認済みであり、説明は省略した。

3. 平成 29 年度予算の支出予想と平成 30 年度予算案について

島田庶務幹事から、資料 2 により、平成 30 年 3 月までの実績見込みと平成 30 年度予算案が示された。また、核燃料部会メーリングリストの年間契約については少額 (1,029 円) のため、更新時期が来たら学会事務局にて予算執行含め手続き願うこととした旨紹介され承認された。平井委員より、部会賞盾製作は今年度実施無しとのコメントがあり、実績見込みから削除することとした。逢坂委員より、ANFC 派遣補助は平成 30 年度の計上は不要とのコメントがあり、反映することとした。

4. 平成 29 年度 核燃料部会全体会議の準備について

島田庶務幹事から、資料 3 により、春の大会での核燃料部会全体会議資料案が紹介された。主なコメントは以下のとおり。

- ・全体会議の日程は平成 30 年 3 月 28 日 (水)
- ・軽水炉燃料等の安全性高度化 RM 検討 WG 延長について→議題 11 参照
- ・燃料デブリ研究専門委員会の 3 月末終了については阿部主査に状況を確認することとなった。
- ・夏期セミナーの日程・場所等は資料 6 の通り修正すること。

その他、不明な点等は庶務幹事から各委員に照会しつつ、3 月 22 日頃まで

にフィックスし、庶務幹事にて必要部数コピーして当日持ち込むこととなった。

5. 企画小委員会の概要について／国際活動（企画）担当業務の分担について

資料 4-1 により、宇埜副部長より国際活動の体制について、情報は宇埜副部長が一元管理し、国際会議毎に海外と頻繁に情報交換している適切な部会員を指名して対応いただく案が紹介され、了承された。

具体的には、WRFPM、TOPFUEL 等は NFD 坂本様、ANF は逢坂委員、AsianZr は牟田先生、Hotlab は日本開催は 10 年後位だがそのときの JAEA 委員とし、それぞれ連絡を取れる委員から打診することとした。

また、逢坂委員より、日韓学生によるサマースクールへの渡航費補助に関する報告が 3/27 に行われる予定だが、核燃料部会は ANFC に統合しており渡航費補助は行わなかった旨、報告があった。

資料 4-2 により、宇埜副部長より第 4 回企画小委員会の議事録紹介があった。

6. 平成 30 年度核燃料部会次期体制及び業務分担について

資料 5 により、島田庶務幹事から業務分担計画表が提示された。

伊藤副部長が 3 月末にて任期満了となるのに伴い、草ヶ谷委員に交代することで内諾を得ていること、また、逢坂委員が 4 月から川西様に交代する予定であることを庶務幹事から紹介し、3 月中に手続きすることとなった。

資料 5 では伊藤副部長をグループ 2 に追記しているが、グループ 3 が適切ではないかとのコメントがあり、修正することとなった。

その他は計画表の通り業務分担することです承された。

7. 平成 30 年度夏期セミナー（3 部会合同）準備状況

資料 6 により、谷口委員より三部会合同となる平成 30 年度夏期セミナーの準備状況が紹介された。初日（8 月 6 日）の核燃料部会基調講演について、部長にお願ひすることとなり、了承された。部長より、材料部会からの参加者は学生が多く、その募集が参考になること、また、講演については学生が多くなることを考慮して大略的な内容を考える旨発言があった。

そのほか、初日の核燃料基礎講座、3 日目のショートトピックスを核燃料部会が担当することが紹介された。

2 日目の昼食時に 45 分程度で運営小委員会を開催できないか、夏期セミナー担当にて検討することとなった。

8. 部会賞関係（選考経過と今後の進め方）について

資料 7-1 により、平井委員から、平成 29 年度核燃料部会賞（学会講演賞、奨励賞）の選考結果報告書について報告された（本件はメール審議にて了承済）。選考小委員会委員の任期について検討し、次回運営小委員会にて平井委員より提案いただくこととなった。

資料 7-2 により、平井委員から、2018 年度講演賞受賞候補者の登録募集状況について 2 月 26 日時点で 6 名が応募している旨報告があった。評価委員の候補も調査しており、春の大会に参加できる委員は平井委員に連絡することとなった。

9. 学会企画セッションについて

資料 8 により、平井委員から、3 月 27 日(火)13:00~14:30 (M 会場) となった水化学部会主催の「シビアアクシデント時の核分裂生成物挙動」研究専門委員会の共催となり、逢坂委員が参加すること等の紹介があった。

また、秋の年会について、企画小委員会の木下委員から企画セッション「熔融塩技術の原子力への展開」等が提案されたことが紹介された。次回の運営小委員会までに企画小委員会で他の提案についても審議し、提案することとなった。

10. 核燃料部会報 53-1 の作成状況／核燃料部会報 53-2 について

資料 9 により、大矢委員から、部会報 53-1、53-2 について報告があった。原田委員から 52-2 の案が配布され、巻頭言について確認があり、52-2 がほぼ完成していることから、巻頭言は 53-2 に掲載することとし、52-2 は早急に発行することとなった。53-1、53-2 については作業を進め、53-2 の巻頭言は削除し、各項目の担当委員から引続き情報を収集していくこととなった。

52-2 に掲載された夏期セミナーの募集については、すでに終了していることから、誤解を受けない表現とすることとなった。

11. ポジションステートメントについて

資料 10 により、尾形委員から、ポジションステートメントWGに「燃料デブリ」について」を提出したところであり、今後広報情報委員会、企画委員会を経て 4 月頃承認される見込みであることが報告された。

多くのコメントに対応して完遂した業績に対し、部会長より労いの言葉があった。

12. 「軽水炉燃料等の安全高度化ロードマップ検討ワーキンググループ」の延長について

宇埜副部長から、平成 30 年 3 月までとされている安全高度化 RM 検討 WG の活動期間を 1 年延長することについて提案があった。

本 WG は、親 WG である人材育成 RM が進んでおらず、核燃料部会独自の RM を検討する場となっていること、実質的に年 1 回程度のローリングを行うことになるとすると 1 年延長の意義が見出しにくい、課題調査表との関係を断ち切れていないことの処置が課題、といった議論があった。

本日の運営小委員会としては、現在活動している WG で意見交換してもらい、どう進めるかを提案してもらうため、1 年とは限らず、活動を継続することを承認することとした。

13. 平成 29 年度第 2 回部会等運営委員会出席報告

資料 12 により、伊藤副部長から、最近の大会予算のうち会場費について、2017 年秋の北大は会場料が増加して予算を上回り、2018 年秋の岡山大は北大よりは予算が少なくて済み、2018 年春の阪大は阪大工学研究科と共催としたため無料となった旨等報告があった。

14. HOTLAB2017 の残金の部会への寄付について

資料 13 により、逢坂委員から寄付の申し込みについて、HOTLAB2017 の残金約 90 万円のうち 20 万円を学会本部管理費とし、残りの約 70 万円を核燃料部会に寄付する旨報告があった。

15. 異常事象解説チーム（チーム 110）解説担当者名簿の変更確認

資料 14 により、島田庶務幹事から、チーム 110 の解説担当者名簿の変更について報告があった（本件はメール審議済）。今後は部会長と副部会長を名簿に登録することとし、これまで登録されていた山中先生、永瀬様、岩田先生、平井委員は登録を解除することとした。

16. その他

(1) 次回の開催予定

次回（平成 30 年度）第一回運営小委員会は、5 月 28 日に原子力学会事務局会議室で開催予定とした。

以上